



ドクター・ハザマの

バイタルサイン塾 41

今、薬剤師に必要な“マインド”

ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座
医師・医学博士 狭間 研至

環境や技術の充実によって 薬剤師の職能は広がっているか？

薬剤師のこれからを考えたときに、在宅医療やバイタルサインといった項目は必ずと言っていいほどテーマに上がってきます。

高齢化率が25%に達し、超高齢社会が本格的に到来しているわが国で医療費適正化というテーマに取り組んでいくにあたり、病院から在宅・介護施設へという患者の流れは必然であり、在宅医療へのニーズは今後飛躍的に高まっていくと予想されます。

また、薬学教育が6年制へと移行し、薬剤師の新たな職能への模索が始まっている中で、血圧計や聴診器、酸素飽和濃度測定器などの機器は、それらの期待に応えるポテンシャルを持っているのかもしれませんが。

こういった状況のもと、在宅医療やバイタルサインをテーマとした研修会やセミナーが数多く開催されるようになってきましたが、その一方で、薬剤師が不安に思う面もあるようです。

例えば、「現在、私の職場では在宅の仕事は皆無だし、今後もなさそう」とか、「私の母校では、バイタルサインシミュレーターがないらしい」というものです。もちろん、現場があるかないかは大きな問題ですし、バイタルサインやフィジカルアセスメントの研修についてハードやソフトが充実していれば、実りの多い実習を受けることが可能でしょう。

しかし、です。あえて申し上げますと、在宅医療の現場に行き、そこで血圧を測れば、薬剤師としての次の職能が開けるかという、当然ですがそんなことはありません。

「なぜ薬剤師になろうと思ったのか」 原点に回帰して考えよう

では、どうすれば良いのでしょうか。私は、決して難しいものではなく、薬剤師が原点回帰すれば、必ず頭にひらめくものだと思っています。

そもそも、なぜ、あなたは薬剤師になろうと思ったのでしょうか？ 医療の現場で働こう、将来のキャリアを描こうと思ったのでしょうか？

もちろん、人それぞれ多岐にわたると思いますが、薬剤師に限らず、医師も看護師も共通しているのは「病気に悩み、苦しんでいる人に寄り添い、その役に立ちたい」ということではないでしょうか。

薬に関して、モノと情報ということのみにこだわり続けたときに、薬も情報もインターネットを介して入手できるようになった今、その思いは遂げづらくなっているのかもしれませんが。

役に立つというのは、「困っていることを解消する」ということです。便秘で困っていれば、それが解消されたのか、痛みで悩んでいれば、その痛みは軽減されたのかを、薬を調剤しお渡しした後にきちんと確認するだけです。

もちろんその流れで、高血圧で困っている人に、血圧が正常範囲内に落ち着いているかどうかをチェックする際、バイタルサインというツールが出てきますし、ご高齢の方で来局が難しい方では、在宅医療という現場が出てきます。

今、薬剤師に必要なのは、環境や技術でなくマインドだと思うのです。